

# 多読授業で 「言葉への気づき」を促す

深谷素子 (慶應義塾大学)

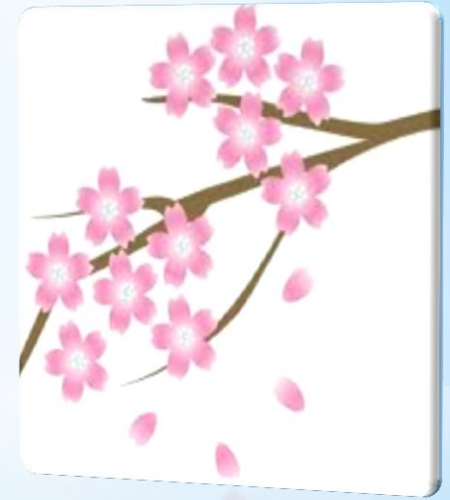
[deepvalley@jcom.home.ne.jp](mailto:deepvalley@jcom.home.ne.jp)

JAILA 日本国際教養学会 第1回全国大会

兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス

2012年3月17日

# 発表の流れ



- \* 多読とは？
- \* 読書を通しての「気づき」
- \* Research Question
- \* 2011年度慶應大学法学部での実践
- \* アンケート結果
- \* 今後の課題

# 多読とは？

1. 学習者が、自分の英語のレベルや興味関心に合った英語の本を自由に選んで読む
2. 簡単な英書を大量に読む
3. できるだけ辞書を引かない、日本語に訳す悪習慣を脱する、読書を楽しむ
4. 主な教材はgraded readers = 多様なレベル、ジャンル
5. 日本に普及した背景 = 大学生の英語力低下、インプット不足

# 日本における多読の現状(1)

## □ 酒井(2002), SSS英語学習法研究会(2005)

- 多読三原則「辞書は引かない」「わからないところはとばす」「つまらなければやめる」
- SSS(Start with Simple Stories)方式
- 授業内多読

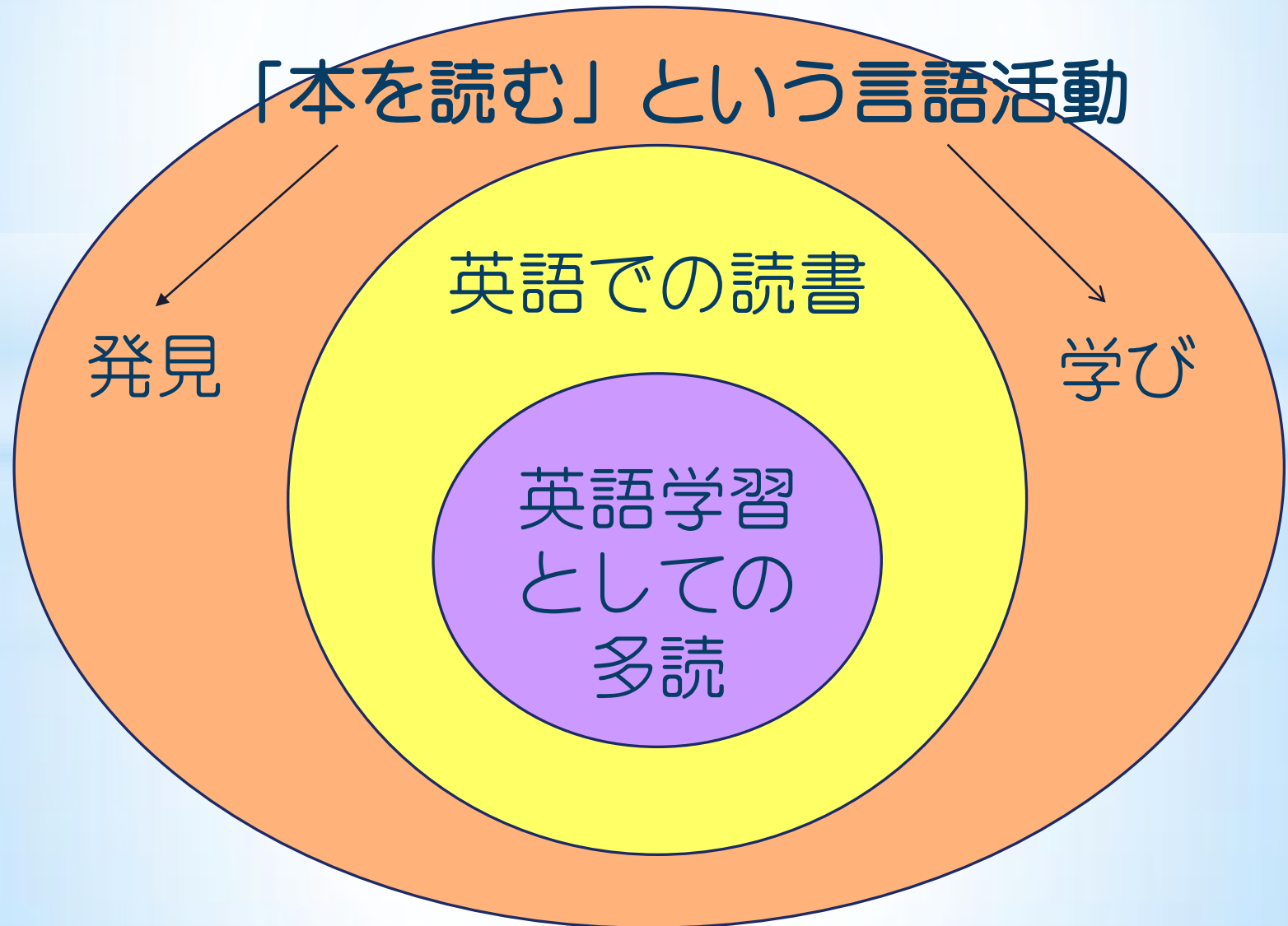
## □ Robb (2009), Claflin (2010),

- MoodleReader (多読用教材の読後チェックソフト)
- 授業外多読
- 小テストの結果や読書量を成績に反映

# 日本における多読の現状(2)

- Nishizawa, Yoshioka & Fukuda (2009),  
豊田高専で4年間という長期の多読実施  
30万語以上→TOEICに好影響
- 小林・河内・深谷・佐藤・谷(2010)  
読書活性化のためのアクティビティ導入
- 高瀬(2010)  
多読と多聴の組み合わせ

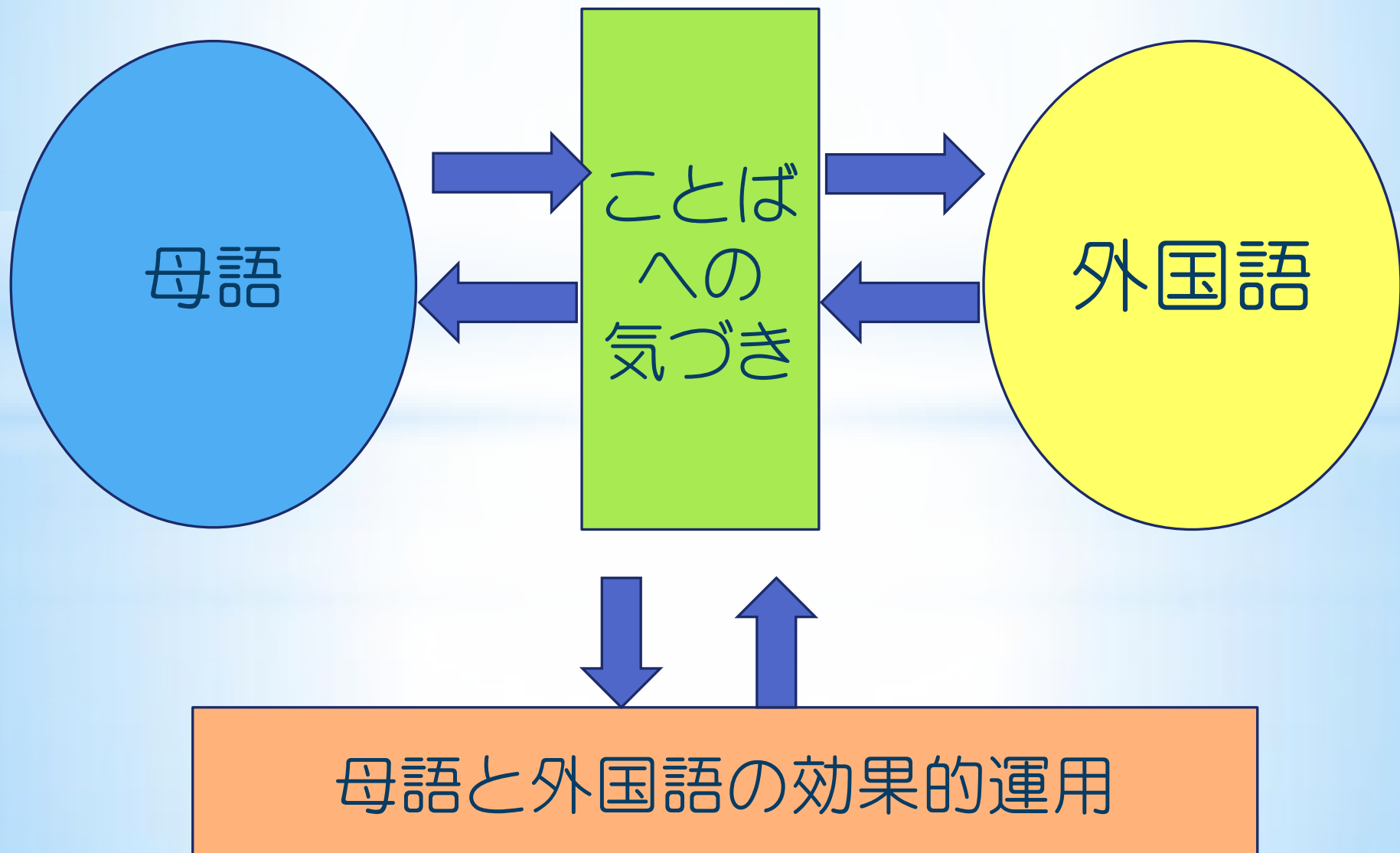
# 「英語学習」から「英語読書」へ



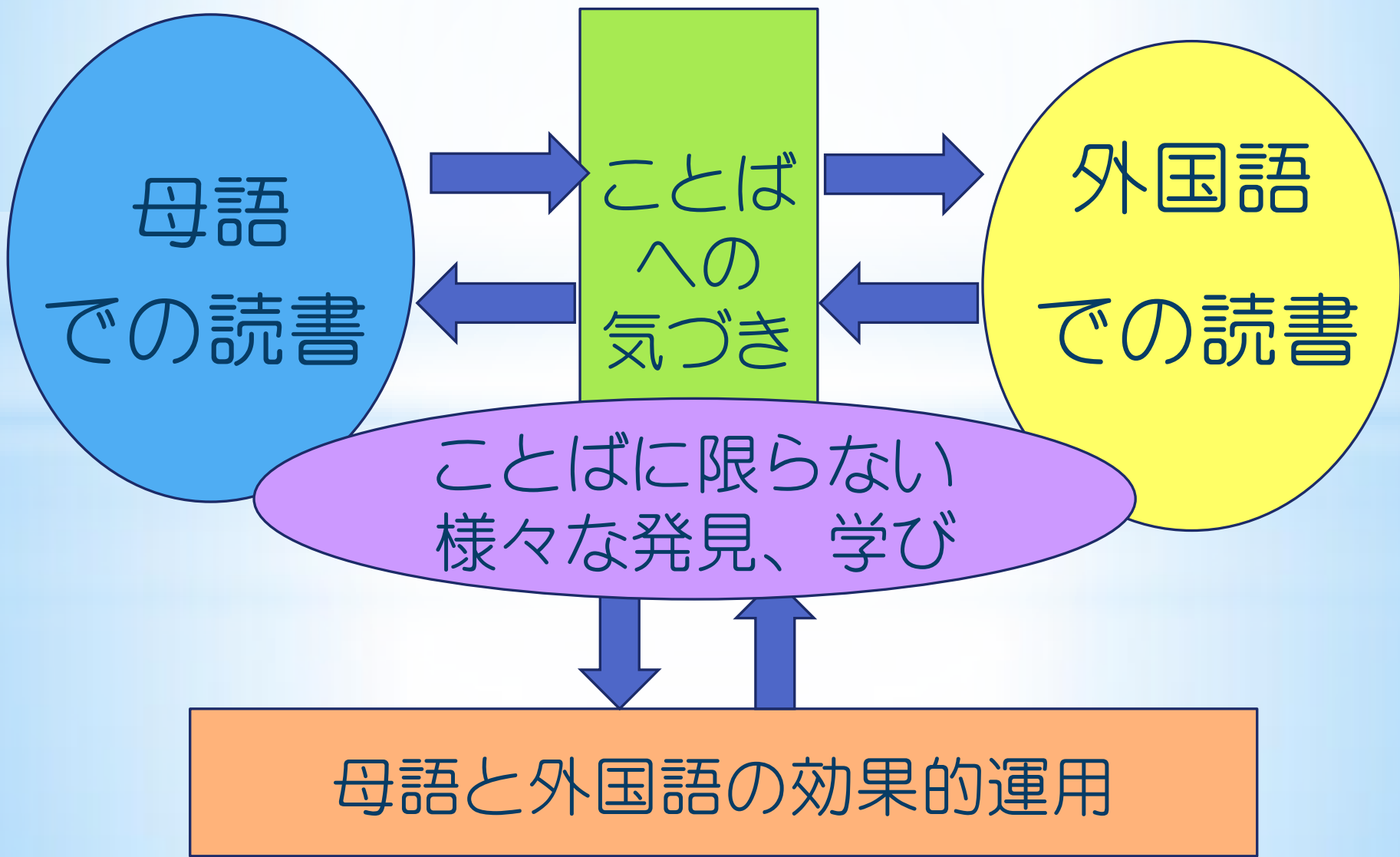
# 学校教育での「言語教育」の目的 (大津, 2009)

1. ことばのおもしろさ、豊かさ、怖さを学習者に気づかせる。
2. ことばは人間にだけ、しかも、人間に平等に与えられた、種の特性であり、個別言語間に優劣はないことを学習者に気づかせる。
3. ことばを使って自己の思考を表現し、同時に、他者の言語表現の意図するところを的確に判断することの大切さを学習者に気づかせる。

# ことばへの気づき(大津, 2011, p. 37)



# 多読における「気づき、学び」



# Research Question

多読授業において、英語学習の要素に加え、読書教育を意識した指導を行った場合、学習者にどのような変化や教育効果をもたらされるか。

- ことばへの気づき？
- 新たな発見/学び？
- 日本語での読書＝英語での読書？



# 2011年度慶應大学法学部での 多読授業

- 「Active Reading：英語で読書を楽しむ」
- 1年生対象の選択英語(通年、シラバスあり)
- 受講者数=46名
- 受講者の英語力=中～上級レベル  
Edinburgh Project on Extensive Reading=EPER(1992)  
のプレースメントテストで測定

# 多読授業の進め方

- 基本はSSS(Start with Simple Stories)方式で、  
まずは量を読む

EPER placement test (EPER, 1992)でstarting levelを決める  
Graded readers→paperback(一般ネイティブ読者向け)へ

- 授業内多読30～45分＋アクティビティ45分

- 読書量やレベルで成績はつけない

出席＝30%、提出物/参加度＝30%、英語レポート＝40%

# 多読授業における読書指導

## ポイント1

読者が主体となる読書アクティビティの導入

## ポイント2

文学作品の積極的使用

## ポイント3

主体的な本選びのための足場かけ



# 読書指導のポイント1

## 1. 読者が主体となる読書アクティビティ

= 読者が主体となる読書論を参照

- Rosenblatt (1978)

“an **active process** lived through during the relationship between a reader and a text.”

- Iser (1976/2005)

読者が空所を埋めながらテキストを完成させる

- 加藤 (2004)

「作者の像」との対話 = 読者の権利

# 読書指導のポイント2

## 2. 文学作品の積極的使用

- Widdowson(1975/1989)

「原義」(signification)と「真義」(value)

- Miall & Kuiken(1999)

文学性とは

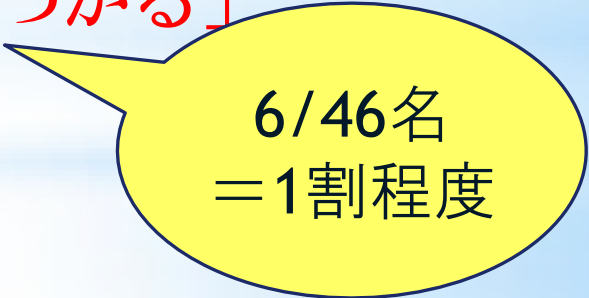
=“modification or transformation of a  
conventional feeling or concept”



# 読書指導のポイント3.1

3. 本当に読みたい本を選ぶための足場かけ
- 個別指導（個別面談、communication sheet）

cf. 「自分の好みの英語の本が見つかる」



6/46名  
=1割程度

- 「濫読」のススメ

「目的も立てず、また選択することもせず、手  
当り次第に本を読むこと」（新明解, 1997）

# 読書指導のポイント3.2

## □ 鹿島(2010)

- 読書の効能とは「今になって振り返ってみれば」というかたちで「事後的」にしか確認できない。
- 「理由は聞かずにとにかく読書しろ」

## □ 内田(2008)

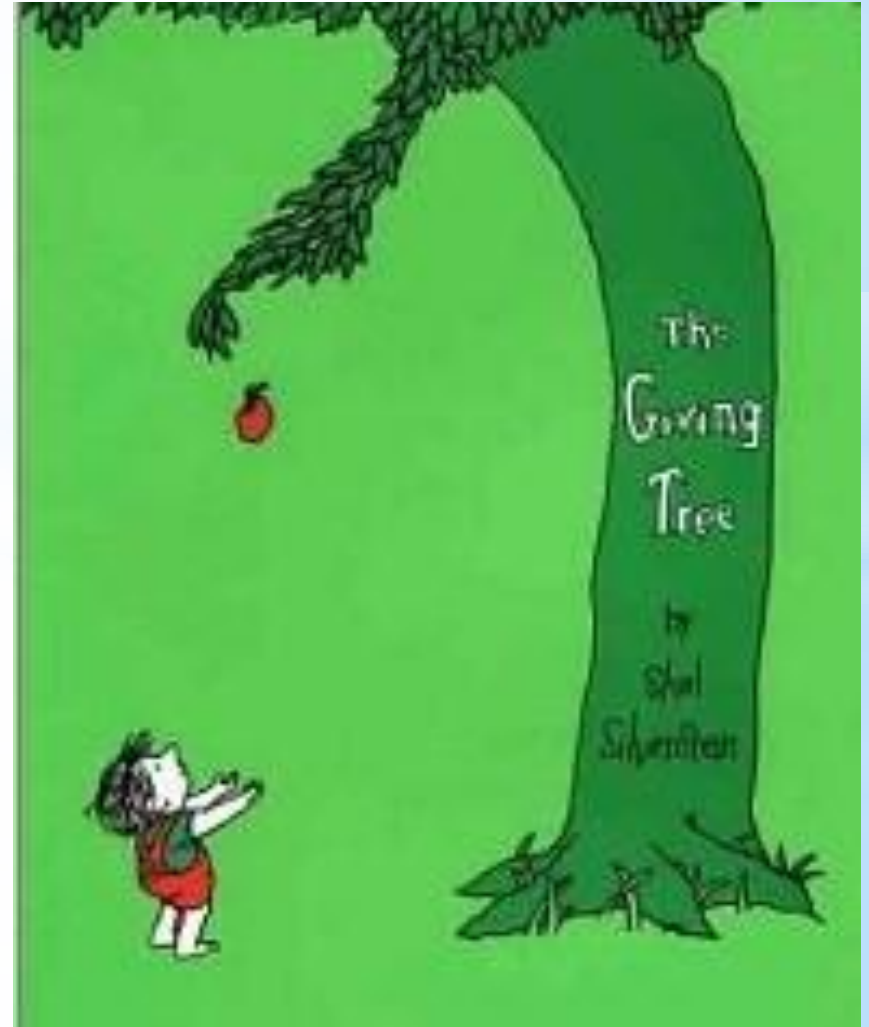
- 自分の手持ちの価値判断の「ものさし」ではその価値を考量できないものがあると気づく。  
=学び=ブレークスルー

# 文学作品を用いたアクティビティ



# Shel Silverstein, *The Giving Tree*

BGMを使った  
読み書かせ  
→感じたことを  
英語で書き出す。



# Virginia Woolfの最後の手紙

BGMを使った  
読み書かせ

→この手紙が遺書であることを推測させる。

→映画『めぐりあう時間たち』の冒頭シーン鑑賞

→真似て、別れの手紙を英語で書く。



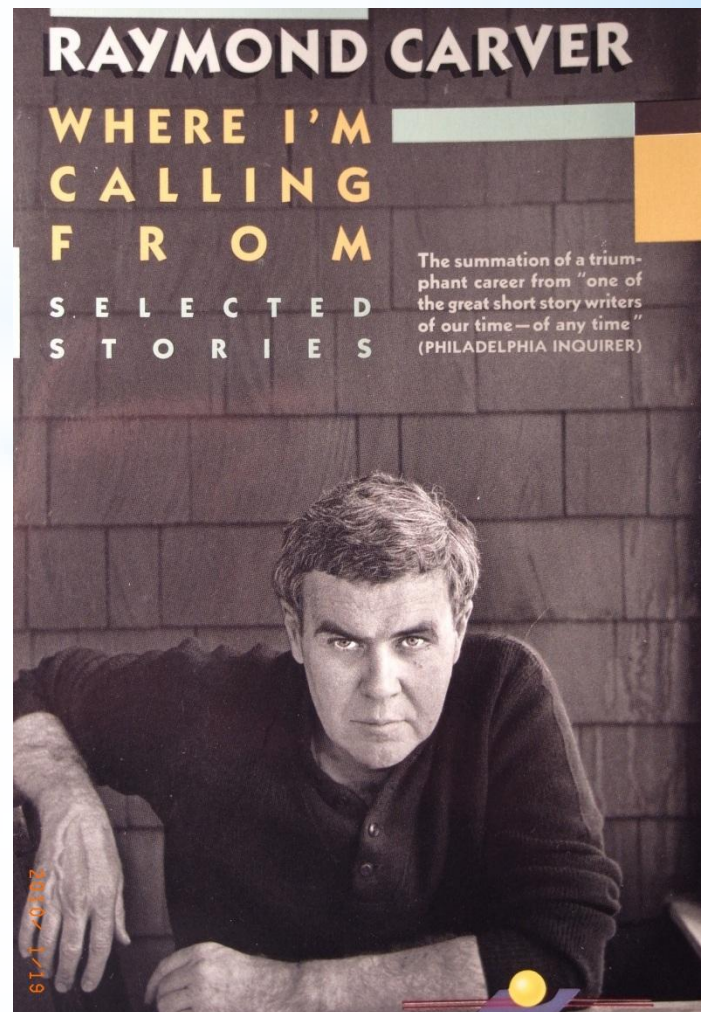
# Raymond Carver, “A Small, Good Thing”

結末部分のみを抜粋し、  
BGMを使って

読み書かせ

→結末だけを読んで、  
その前の出来事を想像  
して書く。

→クラスメートに紹介



# Frederick Douglassの奴隷体験記

第一章のみを  
小グループに分かれて  
分担して訳読  
→ peer review(互いに  
訳をチェックする)  
→ 訳の発表



# Haruki Murakami, “Super-frog Saves Tokyo”他

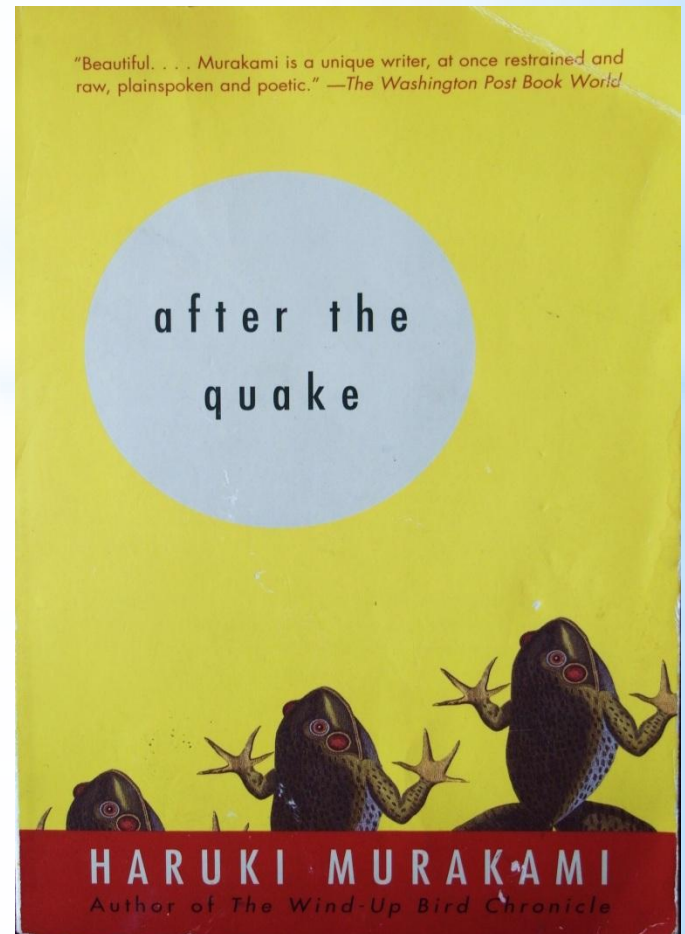
## 短編小説を使った Shared Reading

小グループに分かれる

→作品を選ぶ

→各自読んで、論点を考  
えてくる

→グループディスカッ  
ション



# アンケート結果1

## アクティビティについて



# 文学作品を用いたアクティビティへの反応

アクティビティ	平均値(/5)
“A Small, Good Thing”の読み聞かせ	4.19
Virginia Woolfの手紙と映画の比較	4.07
The Giving Treeの読み聞かせ	4.03
Virginia Woolfの手紙の読み聞かせ	4.03
“A Small, Good Thing”の結末から前の展開を想像	4.02
短編小説を用いたShared Reading	3.95
Frederick Douglassを用いたpeer review	3.71
Frederick Douglassの訳読	3.69
Virginia Woolfを真似て手紙を書く	3.30

# お気に入りアクティビティへのコメント

コメントの分類	のべ回答数
新鮮だった、なんらかの発見があった	20
楽しかった、おもしろかった	10
読んだ作品がよかった	9
本を読みたくなった、映画を見たくなった	2
本論で取り上げなかった6つのアクティビティへのコメント	22

# アクティビティに対するコメント例

- **[The Giving Tree]**BGMと画像(スクリーンにうつされた絵本の挿し絵)と朗読の声の相乗効果がすばらしいと思った。ただの絵本の朗読がこんなに変わるのか、と思った。
- **[Douglassの奴隷体験記]**内容がすごく印象に残っている。書くことの大切さみたいなものと、伝えていくことの大切さを感じた気がする。
- **[Woolf, Carver]**既成の文章の一部だけ読んでほかの部分を想像するという経験は初めてで面白かったし、これが行間を読むことだと実感した。
- **[Carver]**これこそ読書！という感じがしたから。本は文字の背景にあるものを想像することが大切だと思うから。

# アクティビティに文学作品を用いた印象は？

コメントの分類	のべ回答数
文章表現がよい	8
ふだん読むものと違って新鮮だった	6
食わず嫌いだったと気づいた	4
(自分の英語力でも) 読めたという達成感があった	4
深み、重さを感じた	4
独特の雰囲気よかった	4
想像力が求められる	2
もっと読んでみたい	2
Graded reader よりいい	1
語彙のレベルが上がる	1
その他	4
難しいと思った	19

# アクティビティはあったほうがいいのか？

コメントの分類	のべ回答数
クラスコミュニティの重要性	21
アクティビティがないと眠くなる、飽きる	16
アクティビティがおもしろい	9
ふだん読まないような本を知ることができる	8
英語力向上に必要	6
読書へのモチベーションが上がる	1
読書に集中したいので、アクティビティは不要	6

# アクティビティ支持の理由

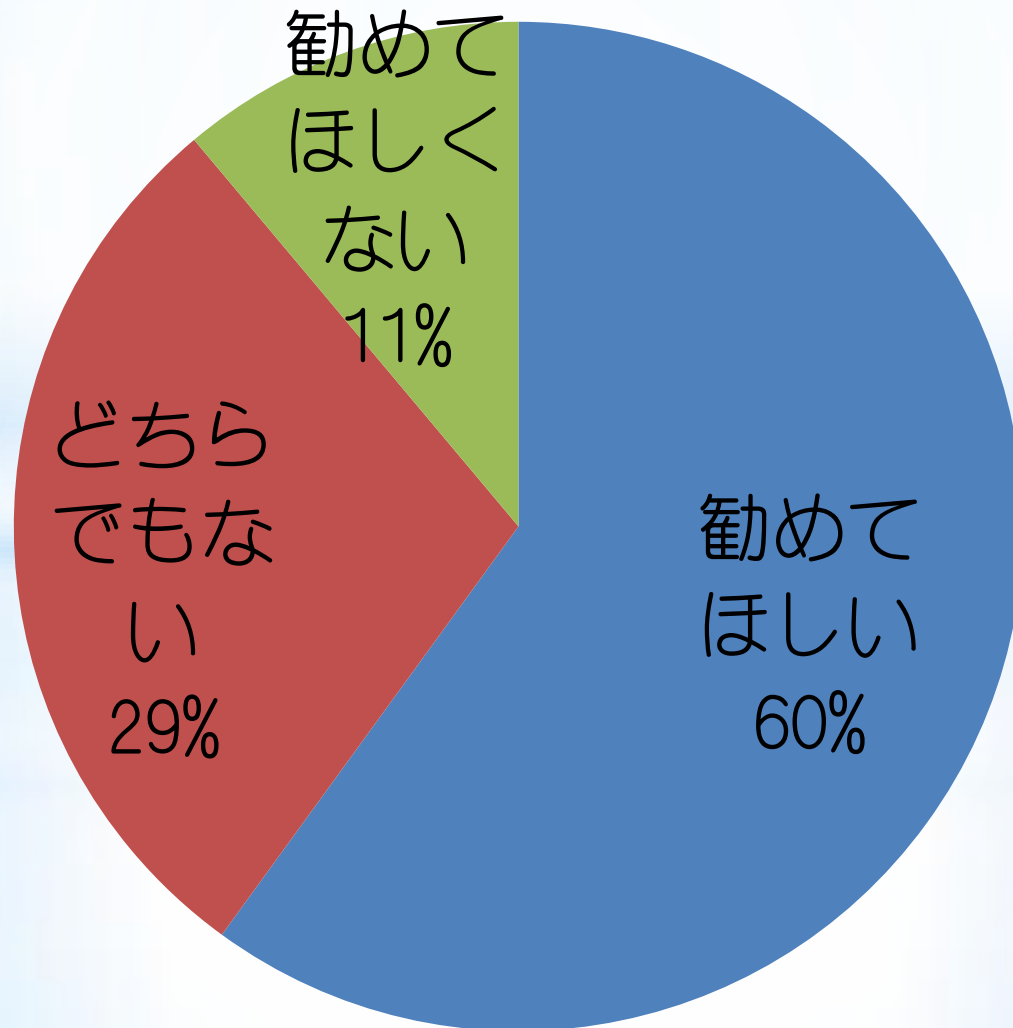
- ただ本を漫然と読むより視野が広がっていいし、自分が普段読まない本も読むことができる。
- Shared readingのような議論も盛り上がると楽しいしアクティビティをきっかけに別の読み方ができるから。
- ただ読むだけではもったいないと感じるようになりました。また、アクティビティを通して考える機会も増えました。
- shared reading が好きです。一冊の本に対しての感想が人によってこうも違うものなのかと思いました。本の見方が広がって違う視点から読めるようになるとさらに楽しめるようになれます。

# アンケート結果 2

## 個別の読書指導について



# 教師に本を勧めてほしいか？



(N=46)

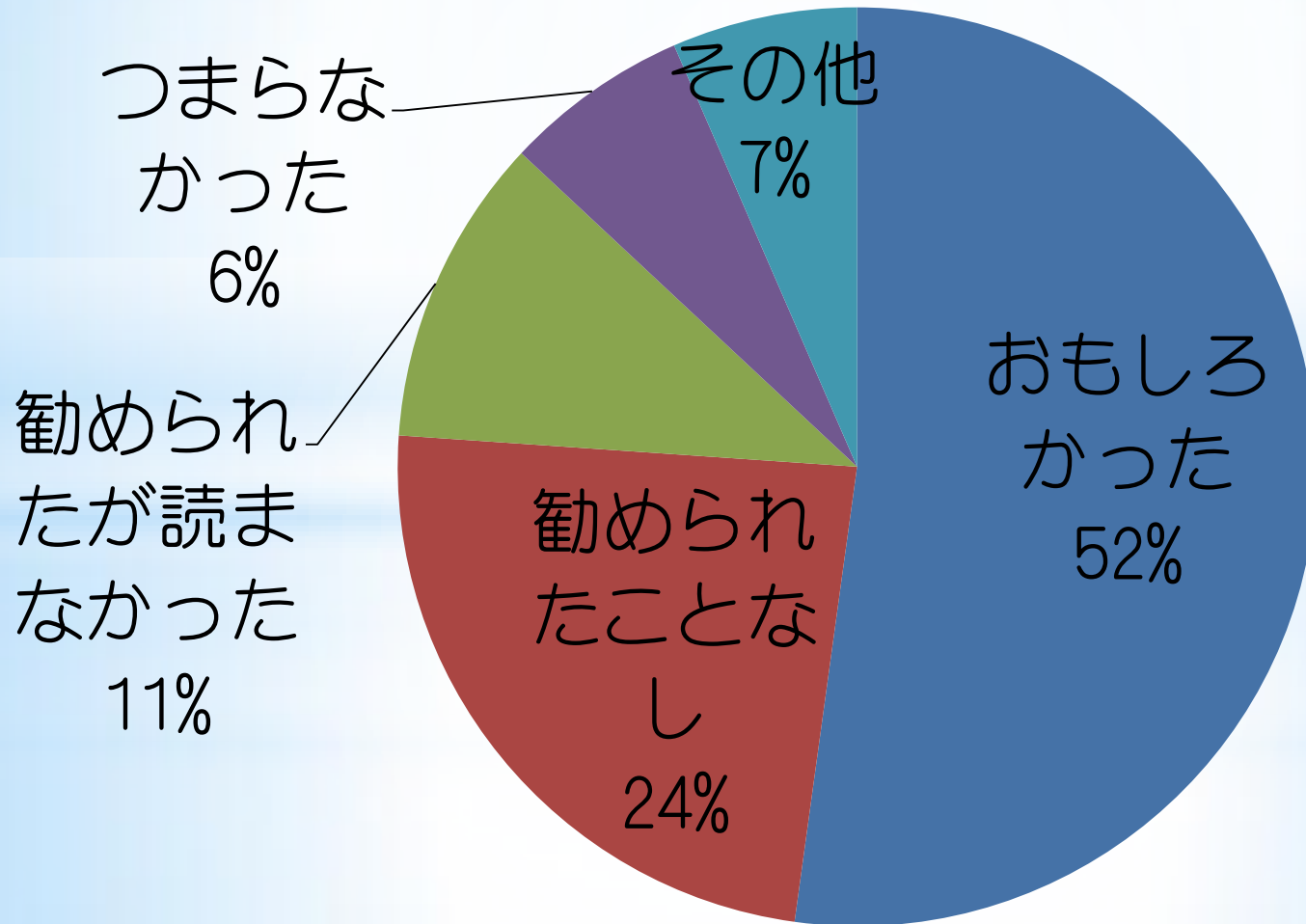
# 教師に本を勧めてほしい理由(1)

理由	のべ回答数
本の選択へのアドバイスが得られる	22
部分的になら勧めてほしい	15
勧めてもらおうと動機づけになる	4
勧めてほしくない	7
その他	1

## 教師に本を勧めてほしい理由(2)

- 自分だけでは絶対に読もうと思わなかった本との出会いがある可能性があるから。
- どうしても読む本が偏りがちになるので、自分がどのような本が好きかを伝えたいので薦めてもらうのは非常に良いと思う、僕自身それでGRを卒業することができた。
- 自分の興味のある本を読むのは楽しいが、様々な作家やジャンルにわたって本を読むことは視野を広げたり色々な分野のボキャブラリーを身近にするといった意味でも大切だと思うから。人からすすめられたものに挑戦してみるのはいいことだと思う。

# 教師に勧められた本は？



# 読書に対する意識変化

25名

見つかる  
=6名

	事前	事後	差
自分の好みの英語の本が見つからない	3.21	2.62	(0.59)
日本語でどんな本を読んだらいいかわからない	2.37	2.13	(0.24)
英語の本を読んで面白いと思ったことがある	3.57	4.42	0.85
英語の本を読んで人生観、世界観が変わった	2.22	2.53	0.31
もっと英語の本を読みたいと思う	4.15	3.75	(0.40)

2010年度は  
(0.02)

# 英語読書の目的に対する意識変化

読書の目的	事前	事後	差
ネット情報を読むために英語の本を読む	3.67	2.86	(0.81)
英語の新聞、雑誌を読みたいから英語を学ぶ	3.63	3.06	(0.56)
英語の本で英語圏の文化、習慣を知りたい	3.91	3.37	(0.54)
英語の本を読むと英米文学のよさがわかる	3.46	3.00	(0.46)
英語でメールしたいから英語の本を読む	3.02	2.72	(0.30)
教養を身につけるために英語の本を読む	3.88	3.60	(0.28)
読むスピードが速くなるように英語の本を読む	3.88	3.78	(0.11)
将来いい仕事につくために英語の本を読む	2.96	2.92	(0.05)
成績を上げるために英語の本を読む	2.67	2.77	0.09
授業の課題だから英語の本を読む	2.69	3.19	0.51
英語を読むのが楽しいので内容はなんでもよい	2.25	1.75	(0.50)

# 結論

## □ 読書指導を意識した多読授業の成果

• ことばへの気づき→

YES

• 新たな発見/学び→

YES

• 日本語での読書 = 英語での読書→

Probably,  
YES

# 今後の課題



1. 「もっと英語が読みたい」のポイントが下がった理由の検証
2. 多様な英語レベルの学習者を対象とした調査
3. ブレークスルー的読書体験と読書量/英語力の向上は相関するのか



**Thank you  
for your attention!**

# 付記

本発表に使用したアンケートについては、  
ドルニエイ(2003/2006)、Takase(2007)を参考に  
作成した。



# References 1

- Claflin, M. G. (2010). Extensive reading at Kyoto Sangyo University: An examination of an evolving and growing program. 『京都産業大学教職研究紀要』 5, 47-56.
- ドルニエイ, D. (2006). 『外国語教育学のための質問紙調査入門』 (八島智子, 竹内理, 監訳) . 東京：松柏社. (Original work published in 2003).
- Edinburgh Project on Extensive Reading. (1992). The EPER guide to organising programmes of extensive reading. University of Edinburgh, Institute for Applied Language Studies.
- イーザー, W. (2005). 『行為としての読書：美的作用の理論』 (轡田収, 訳) . 東京：岩波書店. (Original work published in 1976)
- 鹿島茂. (2011). 「理由は聞くな、本を読め」. 『読書のとびら』 (岩波文庫編集部, 編) . 東京：岩波書店, 55-63.
- 加藤典洋. (2004). 『テキストから遠く離れて』 東京：講談社.

# References 2

- 小林めぐみ., 河内智子., 深谷素子., 佐藤明可., & 谷牧子 (成蹊大学国際教育センター多読共同研究プロジェクトグループ) (編著). (2010). 『多読で育む英語力+α』 東京：成美堂.
- Miall, D. S. & Kuiken, D.(1999). What is literariness? Three components of literary reading. *Discourse Processes*, 28(2), 121-138.
- Nishizawa, H., Yoshioka, T., & Fukada, M. (2010) The impact of a 4-year extensive reading program. In A. M. Stoke(Ed.), *JALT2009 Conference Proceedings*, Tokyo: JALT, 632-640.
- 大津由紀雄 (編著) .(2009). 『危機に立つ日本の英語教育』 東京：慶應義塾大学出版会.
- 大津由紀雄. (2011). 「『ことばへの気づき』を育てるー小学生にとっての英語を考える」. 『佐藤学 内田伸子 大津由紀雄が語る：ことばの学び、英語の学び』 東京：ラボ教育センター, 17-46.

# References 3

- Robb, Tom. (2009) The MoodleReader Software for Tracking Student Reading. Retrieved November 19, 2011 from <http://erfoundation.org/erf/node/43>.
- Rosenblatt, L. M. (1978). The reader, the text, the poem: The transactional theory of the literary work. Carbondale: Southern Illinois University Press.
- 酒井邦秀. (2002). 『快読100万語！ペーパーバックへの道』 東京：ちくま学芸文庫.
- 新明解国語辞典第五版. (1997). 金田一京助., 山田忠雄., 柴田武., 酒井憲二., 倉持保男., & 山田明雄（編）, 東京：三省堂.
- SSS英語学習法研究会. (2005). 『めざせ！100万語読書記録手帳（初版）』 東京：コスモピア.
- Takase, A. (2007). Japanese high school students' motivation for extensive L2 reading. *Reading in a Foreign Language*, 19(1), 1-18.

# References 4

- 高瀬敦子. (2010). 『英語多読・多聴指導マニュアル』 東京: 大修館書店.
- 内田樹 (2008). 『街場の教育論』 東京: ミシマ社.
- ウィドゥソン, H. G. (1989). 『文体論から文学へ: 英語教育の方法』 . (田中英史、田口孝夫, 訳) . 東京: 彩流社. (Original work published in 1975)



# 使用テキスト

- Carver, R. (1989). A small, good thing. *Where I'm calling from: New and selected stories*. (pp. 376-405). New York: Vintage Books. (Original work published in 1981)
- Douglass, F.(1994). *Narrative of the life of Frederick Douglass, an American slave. Frederick Douglass : Autobiographies*. (pp. 1-102). New York: Library of America. (Original work published in 1845)
- Haruki M. (2002). Super-frog saves Tokyo. *After the quake*. (pp. 111-140). (Jay Rubin, Trans.). New York: Alfred A.Knopf. (Original work published in 2000)
- 井上一馬. (2002). 『音読王：心にきざむ英語の名文』 東京：小学館.
- Silverstein, S. (1992). *The giving tree*. NY: Harper Collins Publishers.